

株式会社仙醸

社員エンゲージメントを向上させ、技術や知識を次世代が自発的に承継することで持続的な発展を目指す

①MVV浸透 ②マネジメント力強化 ③伝統/専門技術承継

長野県伊那市を拠点とする江戸末期創業の酒造会社です。中央・南アルプスの伏流水と県産米を用い、地域に根ざした蔵元として、清酒「黒松仙醸」などの日本酒を中心に、焼酎やリキュール、甘酒の製造・販売を展開しています。



課題

- ✓ 部門間の情報共有や他部署業務への理解が不足しており、社員全員が製造や販売流通に関する最低限の知識を持つ必要がある
- ✓ 各部署で会社全体の売上/利益向上を見据えて動く人材が不足しているため、若手幹部メンバーの視座やリーダーシップを向上させる必要がある
- ✓ 製造部門においてベテラン社員の経験や暗黙知に依存しており、マニュアル化などの形式知として技術を承継していく必要がある



取組み
目標

- ✓ 2026年中に全社的なイベントを2回開催して、同イベントのアンケートで参加者全員から他部署の理解が深まったとの回答を得る
- ✓ 若手幹部メンバーを対象とした勉強会（読書会）を2026年に8回開催して、参加者全員が各回の当該ページを読了したうえで参加する
- ✓ 製品部の暗黙知の棚卸を実施して業務を文書として見える化したうえで、各業務を今後承継する担当者の割り振りを完了させる



人材育成
計画

1. 社内コミュニケーション向上

- ・年に1回開催している経営方針発表会と並ぶ全社行事として、「春の勉強会」を開催・企画して2026年より実践する
- ・社員全員が製造や財務会計、販売流通等に関する最低限の知識を得るため、各部署の取組や業務内容について共有する
- ・部署間での円滑なコミュニケーションが取れるよう、同勉強会にてワークショップを開催する

2. 若手幹部人材育成

- ・若手の幹部候補人材を対象とした少人数の読書会/勉強会を開催する（年8回を目標）
- ・読書会を通じて、仕事の成果の出し方・マネジメントの考え方について自ら考える思考を形成する
- ・各自の部署で上記を実践していき、フィードバックを勉強会にて行う

3. 製造部門の技術承継

- ・機材操作や資材管理方法、帳票入力等のベテラン社員が担っている業務をリスト化して見える化を図る
- ・ベテラン社員の暗黙知となっている業務領域において、ヒアリングを行い業務内容を明確にする
- ・明確となった業務に関してマニュアルを作成して（文書化）、業務の引継ぎ先社員を決定する

計画実行
に向けて

中期的な人材育成計画についてじっくり考える良い機会となりました。計画を確実に実施し成果につなげたいと思います。

